

μ ITRON向けに開発したアプリソフト

瞬時にLinux上に移植

電子デバイス・部品

Next Wave

エミュレーションライブラリ発表

デジタル家電
や自動車など
組込みシステム向け

仏Next Wave社（日本法人は東京都新宿区、野島吟司社長）は、μITRON向けに開発したアプリケーションソフトを瞬時にLinux上に移植するエミュレーションライブラリ「LibTRON」を発表した。デジタル家電、自動車など幅広い組込みシステム市場向け。価格は500万円でロイヤルティは不要となっている。

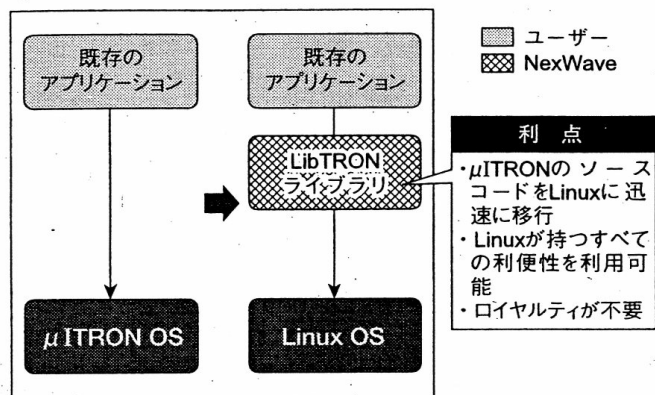


日本法人の
野島 社長

「LibTRON」は、μITRON3.0/同4・API仕様に準拠したエミュレーションライブラリ。μITRON上での動作を前提に開発した既存のアプリケーションソフトを、ソースコードの変更なしにLinuxOS上に移行できる。

また導入時に特殊な技術などは必要なく、様々な開発ツール環境で使用できる。

μITRONからLinuxへのソースコード移行イメージ



「ライブラリ形式」で提供する。従来、μITRONから

「ソフトウェアの再設計が不要なため、従来のソフトウェア品質を保つため、迅速に移行できる。LibTRONにより、

ソフトウェアの再設計

従来機能は既存ソフトウェアをそのまま流用し、ネットワーク機能などLinuxの特徴を生かした新機能だけを開発、搭載することで、LinuxOSの利点を生かした機器開発が短期間に行える。

現在、対応するCPUコアはARM、MIPS、SHなどで、今後対応CPUを増やすほか、各種カスタマイズ要求にも応じる。

同社は、組込みソフトウェアをハードやOSに依存しないソフトウェア部品にする「コンポーネント化技術」を軸に、各種既存ソフトウェアの再利用促進を実現する技術サポート事業を展開。06年に日本法人を設立するなど日本市場を中心に実績を伸ばしている。

今回の「LibTRON」は独自のコンポーネント化技術を応用した汎用製品の第一弾製品。今後、ブルーレイスタックや「GUI」「ブラウザ」など各種組込み用コンポーネントソフトウェアを開発し、汎用製品事業を本格化させる。

なお、日本国内における